

キャンドモーターポンプ

中国で生産能力を增強

月2000台に引き上げへ

帝国電機製作所

帝国電機製作所は、主力であるポンプ製品の生産能力增強を進める。ケミカル、エネルギーなど既存市場に加えて脱炭素化に向けた分野での需要が拡大、今後も成長が期待されることから国内外で生産能力を引き上げていく。中国では生産ラインを増やして月産1400台から2000台と生産能力を約40%増強、2025年から生産開始することを決めた。米国市場についても当面は日本からの輸出増で対応するが、中長期的には需要増が期待できることから生産能力增強も検討していく。



脱炭素化に向けた分野で需要拡大

酸化炭素の回収
・活用・貯留
(CCS/CCU) など(実験
・実証段階)にあ
る分野での受注
も含まれてお
り、今後、実用
化、量産化、商
業化と進んでい
くなかで、さら
なる需要拡大が
期待されている。

帝国電機製作所はポンプとモーターが一体型になった完全無漏洩のキャンドモーターポンプのトップメーカー。取り扱われる液が漏洩しないため、毒性や揮発性のある危険な液体の取り扱い性に優れ

ており、石油・化学プラントで多数採用されている。液漏れないことから環境にやさしい製品であり、洋上風力発電、アンモニア燃料船など脱炭素化に貢献する製品として用途拡大に注力、こう

した分野への引き合いも高まっている。すでにケミカルリサイクル、生分解性プラスチック、リチウムイオン電池、バイオマス発電などの分野では商業化が行われており、脱炭素関連の

受注額は22年度14億円から23年度は25億円と増加、ポンプ事業全体の1割を占めるまで伸長している。アンモニア混焼、アンモニア燃料船、水素ステーション、持続可能な航空燃料(SAF)、二

こうした流れのなかで、環境に対する意識が急速に高まっており、需要を大きく伸ばしている中国の子会社である大連帝国キャンドモーターポンプの生産能力を月産2000台へと引き上げる

ことを決めた。当初は30億円を投資して新工場を建設する計画だったが、詳細を検討するなかで、生産品目の見直し、レイアウトの変更、生産設備の増設、生産管理システムの整備を行うことで同等の增強が行えると判断、生産能力增強の概要を決定した。今年8月に工事を開始し、来年12月に竣工、25年1月から生産を開始する。投資額は13億円の見込み。

さらに米国でも燃料電池やバイオ燃料向けの案件が増えつつあることから、米国での生産能力増強に向けた検討も開始する。当面向などを見直し、投資時期、規模などを判断する。

出典：2023年6月7日 化学工業日報

※当記事は(株)化学工業日報社より許可を得て掲載しております。